

令和8年度

天草市

社会を明るくする運動

作文コンテスト

入賞作文集



“社会を明るくする運動” 天草市推進委員会

目次

最優秀賞

社会を明るくするために、僕ができること	天草市立本渡北小学校	六年	中元 崇大朗	1
---------------------	------------	----	--------	---

優秀賞

社会を明るくするために	天草市立本渡北小学校	六年	上原 優衣	3
ふわふわことばがつくる明るい未来	天草市立本町小学校	五年	松本 昇磨	5

天草地区保護司会賞

「社会を明るくする運動」について	天草市立牛深東中学校	三年	大田 椿季	7
------------------	------------	----	-------	---

奨励賞

社会を明るくするために	天草市立牛深東中学校	二年	作本 真凰	9
-------------	------------	----	-------	---

「社会を明るくするために、僕ができること」

天草市立本渡北小学校 六年 中元 崇大朗

学校で「社会を明るくする運動」のことに
ついて、話があった。どういふことかはつき
り分からなかったので、お母さんに聞いてみ
た。すると、

「私は、感謝と思いやり。そして、笑顔だと
思うよ。」

と言われた。何でそう思うのか聞くと、

「笑顔ってさ、人を元気にするし、笑顔の素
敵な人には、人が集まってくるでしょう？私
は、それしかできないから、笑顔でいること
が大事だと思うし、相手の気持ちになって行
動する。そして、感謝の気持ちを言葉にする
ことも大事だと思ってるよ。いつも『ありが
とう』や『ごめんなさい』って言えるように
なろうって話してるよね。相手の気持ちを考
えずに好きなようにされるとさ、嫌な気持ち

にならない？そんな人にありがとうって言え
るかな。」

と言われた。僕は、そうだなと思った。だか
ら、お母さんは、いつも僕や弟や妹の話を聞
いて、笑って家の中を明るくしてくれてるん
だなと、うれしくて、明るい気持ちになった。
僕にもできそうな気持ちが湧いてきた。もっ
と何かできることはないか考えた。

僕は、休みの日に、ひいばあちゃんとおば
あちゃんとおじいちゃんがいる飲食店に
行くことがある。「社会を明るくする運動」
のことを知った後に行った時のことだ。いつ
も「いらっしやいませ」「ありがとうござい
ました」と笑顔で言っている姿を見る。お客
さんが笑顔で帰っていく姿を見ると僕もうれ
しくなる。僕が片付けをしていると、ひいば

あちゃんが、「崇大朗、片付けてくれてありがとう。崇大朗も『ありがとうございました』とお礼を言うとお客さんも喜ぶよ。うれしい気持ちになるからね。」

と教えてくれた。僕は、恥ずかしくて何も言わなかったり、軽く会釈をしたりするだけだったから、次に帰られるお客さんに言ってみようと思った。僕は、恥ずかしかったけれど帰られるお客さんに、

「ありがとうございます。」

と言ってみた。そのお客さんは、僕が小さい時から知っているお客さんだ。僕の言葉を聞いたそのお客さんは、驚いた顔になった。だけど、すぐに笑顔で、

「崇大朗ありがとう。また来るね。」

と言ってお店を出て行かれた。僕は、うれしくなって笑顔になった。勇気を出して言っよかったと思った。僕は、大好きなひいばあちゃんたちが作る料理を、お客さんが食べて笑顔になって、その食べている姿を見ているひいばあちゃんたちも笑顔になって、「あり

がとう」の言葉に、もっと笑顔になって、明るい輪が広がっていてすごいと思った。この時、お母さんが言っている言葉の意味が分かったような気がした。お母さんもこうして、ひいばあちゃんから教えてもらったから、僕にも同じようなことを言っているんだと思った。僕は、この出来事をお母さんに話した。「笑顔の輪が広がるよね。感謝を口にするって大事だね。」

とお母さんが返してくれた。

僕は、「社会を明るくする」と考えると難しいけれど、僕の家族や友だちがうれしいと思うことをすると「ありがとう」が増えて、笑顔の輪がどんどん増えていって、その人たちが、その周りの人たちと笑顔で過ごしていくようにつながっていくと、社会が明るくなると思うので、あいさつすることや感謝の気持ちを言葉にすることなど、今の僕にできることをこれからもしていきたいと思う。

「社会を明るくするために」

天草市立本渡北小学校 六年 上原 優衣

私は、小学校のスマイル委員長です。スマイル委員会では、毎朝担当のスマイル委員が校門の前に立って、小学生や地域の方々にあいさつをする「あいさつ運動」を行っています。私はこの委員会に五年生の頃から入っていて、あいさつ運動にはよく参加してきました。私達の暮らす社会が明るくなるにはどうすればいいのか、私のあいさつ運動の経験から考えてみました。

私が五年生であいさつ運動をしていたときは、スマイル委員はあまりあいさつ運動に來ないで、委員長と副委員長、そして私と友達だけが来ていました。その頃の私は、あいさつは大事なことでとわかっていても、「委員会の仕事だから・・・。」と、決して心からあいさつをしたいと思ってはいたわけではあり

ませんでした。私が小さな声であいさつをしても、仲の良い友達などがあいさつを返してくれるだけで、あいさつを返してくれる人は決して多くありませんでした。この頃、私達のあいさつを聞き流していたような人達は、笑顔というよりかは口をへの字にして、明るくない登校になっているようでした。私達はスマイル委員会なのに、「これではスマイルをつくれていない。」と思い、少しさみしい気持ちになっていました。

そして、私は六年生になり、スマイル委員長になりました。私は、昨年のようなあいさつ運動にしたくないと思い、あいさつ運動に來ない人がいないようたくさん呼びかけをしました。すると、去年より多くのスマイル委員があいさつ運動に來てくれるようになりま

した。また、私と友達は去年の反省を活かし、笑顔で大きな声であいさつをするようにしました。あいさつ運動に来てくれるスマイル委員が多いので、もちろん全体のあいさつの声は大きいのですが、さらに、来てくれるスマイル委員が私達の笑顔と大きな声を真似してくれて、より明るく楽しい雰囲気をもとったあいさつ運動になりました。もちろん、あいさつを返してくれる人は増えましたが、まだ暗い感じで、恥ずかしがってあいさつを返せないような人達も少なくはありませんでした。

それでもこのあいさつ運動が続けていると校長先生が北っ子の集いであいさつ運動の活動を取り上げて褒めてくださり、あいさつ運動への関心がみんなから寄せられ始めました。

初めは恥ずかしがっていたり暗い感じだったりした人達も、私達に顔を向けて、たとえば小さな声でも「おはようございます。」とあいさつを返してくれるようになりました。そのときに、私は心の中がほっこりして、なんだか心が明るくなったような気がしました。

そして、もっとあいさつをしたいと思うようになりました。そして今では、あいさつをする側もあいさつを返す側も、明るく楽しい登校になっています。

この経験から社会を明るくするために考えたことは、「あいさつ」と「笑顔」が大切だということです。笑顔であいさつを続けるとみんなが明るく楽しい登校になっていったように、地域の方にも笑顔であいさつをしていけば、北小のように社会全体がどんどん明るくなっていくと思います。あいさつはコミュニケーションの第一歩です。明るい笑顔であいさつを交わし、地域全体がつながっていけば、犯罪や非行はなくなり、すてきな社会になると思います。

「ふわふわことばがつくる明るい未来」

天草市立本町小学校 五年 松本 昇磨

ぼくは、学校で「ふわふわことば」と「ちくちくことば」について学びました。

たとえば、「ふわふわことば」は「ありがとう」「や」「大丈夫？」など、言われた人がうれしくなるやさしい言葉で、反対に「ちくちくことば」は「なんでできないの」「や」「もういい」など、人をきずつけたり悲しませてしまう言葉です。

ぼくは家で、弟にちくちくことばを言ってしまったことがあります。いやなことを言われて、思わず「あっち行け」と強く言ってしまった。そのとき弟は悲しそうな顔をしながら、ぼくもややとした暗い気持ちになり、言ったことをとても後悔しました。それから、相手の気持ちを考えるようにしました。

ある日、学校で友達が重そうに荷物を持っていたので、手伝ってあげました。すると、「ありがとう」と笑顔で言ってくれて、ぼくはともうれしい気持ちになりました。相手を思いやる行動で自分もうれしくなり、また手伝ってあげたいという気持ちになりました。

ぼくのお父さんとお母さんは、小さいことでも「ありがとう」と言ってくれます。草引きの手伝いをしたり、物を取ってあげたり、体調が悪そうな時に「大丈夫？」と聞いても「ありがとう」と言います。ぼくも「ありがとう」というふわふわことばをたくさん使ってみんなをやさしい気持ちにしてあげたいと思います。

みんながふわふわことばを使い、一人一人

が思いやりのある行動をすれば、けんかやいじめ、争いがへり、みんなが安心してすごせる明るい社会につながると思います。

これからは、家では弟にやさしい言葉で話すようにし、学校では友達や周りの人に進んで声をかけたり、こまっっている人がいたら助けたりしたいです。そして、相手の気持ちを考えて行動できる人になりたいです。

「社会を明るくする運動について」

天草市立牛深東中学校 三年 大田 椿季

私は、社会に貢献するために大切なことは「相手の立場に立って考えること」と「それを行うに移すこと」だと思います。社会に貢献すると聞くと、特別な能力や大きな活動が必要だろうと考えがちですが、実際には日常の中の小さな意識や行動の積み重ねが、社会全体を支えているのではないかと思います。なぜなら、社会は多くの人との関わりによって成り立っており、その中で一人ひとりが周りの人のことを考えて行動することで、より良い環境が生まれるからです。例えば、困っている人に声をかけるなども立派な社会貢献の一つだと思います。このような行動は一見小さなことに見えますが、その積み重ねが人と人との信頼関係を築き、結果的に社会全体を支える力になるのではないかと思います。

このように考えるようになったきっかけの一つが、「素晴らしき世界」という映画です。この映画では、元受刑者の男性が社会復帰を目指して生活していく様子が描かれています。主人公は過去に罪を犯した事で、周囲から偏見をもたれたり、仕事や住まいを得ることが難しかったりと、多くの壁に直面します。それでも彼はあきらめず、真面目に生きようと努力し続けます。しかし、どれだけ本人が努力しても、周囲の理解や支えがなければ、社会の中で生きていくことは難しいという現実も描かれていました。この作品を通して私は、社会に貢献することは、自分が何かをするだけでなく、他者を受け入れ、支える姿勢をもつことも含まれるのだと感じました。もし周囲の人が主人公を過去だけで判断し、関わる

うとしなければ、彼は社会の中で、居場所を見つけることができなかったと思います。逆に、少しでも理解しようとする人がいたことで、彼は前に進むことができたのだと思います。また、この映画を見て、私は「社会の一員として生きる責任」についても考えました。

自分の行動が他人にどのような影響を与えるのかを意識することは大切だと思います。無意識の言動が誰かを傷つけてしまうことがあれば、逆にちよつとした優しさが誰かの支えになることもあると思います。そのため、自分の行動に責任をもち、周囲への影響を考えることが、社会に貢献する一歩なのではないのでしょうか。

私たち中学生ができる社会貢献は限られているように感じるかもしれませんが、決してそうではないと考えます。例えば、学校生活の中でルールを守ることや、友人と協力して物事に取り組むこと、地域の活動に参加することなども、社会の一員としての大切な役割です。これらの経験を通して、他者と関わる

力や思いやりの心を育てていくことが将来の社会貢献につながるのではないかと考えます。これから私は、自分のことだけでなく、周りの人や社会全体のことを考えて行動できる人になりたいです。そして、小さなことでも、自分にできることを見つけ、積極的に行動していきたいと思います。その積み重ねが、誰かの助けとなり、より良い社会をつくることにつながると信じています。



奨励賞

「社会を明るくするために」

天草市立牛深東中学校 二年 作本 真凰

私が考える「社会を明るくする運動」は二つあります。

一つ目は、あいさつです。あいさつは簡単で、学校や家でも教えられますが、話したところがない地域の方々とながらぎっかけになると私は考えました。初めて行うときは恥ずかしいと感じる人もいると思いますが、あいさつを返してもらった時に安心感があつたりうれしかったりするはずです。あいさつは小さなことですが、お互いにあいさつが交わせる環境があることで、孤独感などが減り、犯罪や非行をしづらくなると思います。

二つ目は、相談してみようかなと思うことができる環境をつくることです。これは大人の人にしかできないことではないかと思うかもしれませんが、私は大人に限らず、私たち

子どもにもできることだと思っています。困っていたり悩んだりする友だちに対して少し優しい言葉や行動をしたり、「大丈夫？何かあつた？」と少し勇気を出して声をかけることで、私のことを気にかけてくれているんだな、相談してみようかなと一人で抱えこまずにいられる環境がつけれると思います。悩みを一人で抱えこまずにいることで、心が少し楽になり、余裕ができるはずです。そうすることで犯罪や非行が少なくなると私は考えました。

最後に、犯罪、非行をした人の立ち直りについて私が考えたこと、感じたことについて書きます。私は、犯罪や非行をした人の立ち直りには、周りの理解が必要だと思います。どうしても偏見や誤解などがうまれやすく、

責められることもあると思います。しかし、その人を理解し、安心して人生をやり直せる環境をつくることができたなら、同じ過ちを繰り返すことはないのではないかと考えます。犯罪や非行をしてしまった人たちを理解するということは難しいことですが、周りの環境が立ち直りへの第一歩になるはずです。

社会を明るくするために、一人一人がお互いのことを大切にしたり行動を心がけていきたいです。一人で動いてもなかなか変わっていかないのです、多くの人に広がっていくといいなあと 생각합니다。私自身はまず行動していきます。

令和8年度天草市“社会を明るくする運動”作文コンテスト実施要領

1. 趣旨

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

犯罪や非行をなくすためには、取締りを強化して、罪を犯した人を処罰するだけでなく、立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすすめることも大切であり、そのためには、地域の全ての人たちがそれぞれの立場に関わっていく必要があります。

そこで、次代を担う子どもたちに、日常の家庭生活や学校生活の中で体験したことをもとに、犯罪や非行のない地域社会づくりや犯罪や非行などに関して考えたこと、感じたことを作文に書くことを通じて、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的に、作文コンテストを実施します。

2. 主催

社会を明るくする運動天草市推進委員会

3. 応募規定

- | | |
|-------------|--|
| (1) 資 格 | 天草市内の小学生及び中学生 |
| (2) テ ー マ | “社会を明るくする運動”の趣旨を踏まえ、日常の家庭生活や学校生活の中で体験したことをもとに、犯罪や非行のない明るい地域づくりや青少年の非行防止、犯罪・非行をした人の立ち直りについて考えたこと、感じたことなどを題材としたものとします。 |
| (3) 用紙・字数 | 400字詰め原稿用紙3～5枚を原則とします。
ただし、規定の字数に満たない場合も、一部の賞についての審査の対象とします。 |
| (4) 応 募 方 法 | 所属の小学校または中学校を通じて応募してください。 |
| (5) 応 募 締 切 | 令和8年5月15日（金）まで |
| (6) そ の 他 | ① 応募作品は自作及び未発表のものに限り、原本（手書きのもの）とします。
② 応募作品には、題名、学校名、学年、氏名を記入してください。 |

4. 応募先

社会を明るくする運動天草市推進委員会事務局（天草市教育委員会 生涯学習課内）

〒863-0034 天草市浄南町4番15号（天草市複合施設こらす内）

TEL 27-7788 FAX 23-8811

5. 表彰

（1）応募作品の中から、最優秀賞1点、優秀賞2点、天草地区保護司会賞1点、奨励賞数点、入選数点を選定し賞状を贈呈します。また、最優秀賞1点、優秀賞2点、天草地区保護司会賞1点、奨励賞数点には副賞（図書カード）を贈呈します。

ただし、規定の字数に満たない作品については、奨励賞、入選のみの対象とします。

（2）入賞者・入選者については、令和8年6月中旬頃に所属学校長を通じて通知します。

（3）入賞者については、“社会を明るくする運動”関連行事において表彰する予定です。

6. その他

（1）優秀な作品は、“社会を明るくする運動”熊本県推進委員会が実施する熊本県作文コンテスト及び法務省・“社会を明るくする運動”中央推進委員会が実施する全国作文コンテストに推薦します。ただし、両コンテストの規定字数「400字詰め原稿用紙3～5枚」を満たす作品のみを対象とします。

（2）熊本県作文コンテスト及び全国作文コンテストに応募する作品の著作権は、当該コンテストの主催者に帰属するものとします。

（3）入選作品は、氏名及び学校名・学年とともに、“社会を明るくする運動”の啓発を目的とした啓発用品や冊子、チラシ、市政だより、ホームページ等に掲載することがあります。また、報道機関、インターネット等により公表される場合があります。

（4）応募作品は原則として返却しません。

* 作品は出品者の意思を考え、原文のまま記載していますが、読みやすいように句読点や漢字、送り仮名、ひらがな等を一部修正しています。

令和８年度天草市“社会を明るくする運動”作文コンテスト入賞作文集

令和８年７月発行

発行 “社会を明るくする運動” 天草市推進委員会

編集 天草市教育委員会生涯学習課

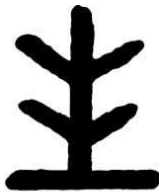
天草市浄南町４番１５号

天草市複合施設ここらす

TEL ０９６９－２７－７７８８

FAX ０９６９－２３－８８１１

人はみな、
生かされて
生きてゆく。



更生保護ネットワーク